1-3(3) 現地関係者とのワークショップ
参加者名簿

現地関係者とのワークショップ参加者名簿

No.	機関名	役職等	氏名
【日本側】			
1	農林水産省	食品製造課長	渡邉　顕太郎
2		食品製造課課長補佐	二井　敬司
3	日本チョコレート・ココア協会	専務理事	三谷　昭彦
4	在ガーナ日本国大使館	一等書記官（開発協力担当）	勝村　昌央
	中央開発株式会社	海外技術部部長	山口　達朗
	伊藤忠商事株式会社	カカオ・ゴマ課トレーダー	緒方　孝行
		アクラ事務所所長	梶川　建倫
		アクラ事務所	大野　友也
【ガーナ側】			
1	ガーナ・カカオボード	総裁	Joseph Boahen Aidoo
2		副総裁	E. Ray Ankrah
3		理事（モニタリング調査・評価）	Dr Francis Baah
4		マーケティングカンパニー代表	Vincent Akomeah
5		理事（法務担当）	Francis A Opoku
6		副理事（広報担当）	Stephen Boafo
7		副理事（研究開発担当）	Michael Amoah
8		副理事（モニタリング調査・評価担当）	Dr Manu
9	ガーナ食料農業省	部長（収穫サービス）	Solomon Ansah-Gyan
10		調達責任者	Doris Vaayl
11	世界カカオ基金（WCF -World Cocoa Foundation）	ガーナ代表	Betty Simawua Annan

1-4(1) 生産農家への研修（技術講習会）概要

技術講習会の概要

日　時：11 月 23 日 10:05～13:40
場　所：ガーナ国ボゴソ市　ボゴソゴールデンホテル
参加者：ガーナ（GCB）カカオ健康・普及部門（CHED）SAMUEL OSEI 地域副マネジャー、品質管理部門（QCC）Ernest Felix Appiah マネジャーほか
（ボゴソ周辺）カカオ生産農家３６人
日　本（農林水産省）　渡邉食品製造課長、二井食品製造課課長補佐
（日本チョコレート・ココア協会）三谷専務理事
（中央開発（株））海外事業部　山口部長
（伊藤忠商事（株））カカオ・ゴマ課　緒方トレーダー
アクラ事務所　　梶川所長、大野所員
概　要：

渡邉課長より、ガーナのカカオ豆についての持続可能なカカオ豆の生産を支援するための本事業の目的、本日の講習内容を盛り込み、冒頭あいさつとして発言。

ガーナ側からガーナココアボード（GCB）の品質管理部門（QCC）の Felix Appiah マネジャーより、あいさつについて以下のとおり、

（日　本）伊藤忠商事（株）梶川アクラ所長より、日本のチョコレート産業のカカオ豆調達の現状やサスティナブル調達に係る企業の取り組み、日本企業が求めるカカオ豆の品質等ついて、資料に基づき説明。

（ガーナ）GCB の QCC の Felix Appiah マネジャーから、ガーナにおけるカカオ生産やトレサビリティのシステムについて資料に基づき説明。具体的な発言内容は以下のとおり

この技術講習会の目的は、日本の事業に GCB が協力して皆さんにガーナにおけるトレサビリティシステムについて、説明することです。昨日はアクラでワークショップを行い、本日、農家の皆さんとコミュニケーションをとりながら、話し合いたいと考えています。
・カカオ農家にいうと 80 万人のカカオ農家がいます。また、カカオ産業に関わる人も同数いて、これだけ多くの人々に影響がある産品はカカオ豆以外にはない。
・カカオがガーナ経済を支えている中で、そのカカオをしっかり発展させていかないと成り立たない。カカオ豆のサスティナブルについては、カカオに関わる全ての人が取り組むことが求められている。そのためには、環境破壊をしないこと、もう一つ大事な点は、労働に見合った収入が得られるのがサスティナブルである。農薬の適正使用など安全性を確

保することが重要である。

また、日本側が求めている安全性が確保できれば、現在の 75%の輸出量が 100%となることも可能である。

・サスティナブルの取組は、誰かに言われてするのではなく、自主的にすることである。

トレサビリティは、サスティナブルと密接な関係がある。生産した農園がどこなのか、またそこでのサスティナブルの活動がどのように行われているかなど。それら透明性を国際的パートナーが求めているレベルに向上させることは、どの輸出企業にとっても、大切なことである。

現行のトレーサブル・システムでは、輸出のレベルからコミュニティレベル（集落単位）までしかトレースできなかった。問題が起きた際には、集落以下での原因がつかめない課題があった。具体的には、農家から直接買い上げる仲買人（Purchasing Clerk）は、カカオ豆の買い付けの競争が激しいのでカカオ豆の麻袋の印字をごまかす場合があった。現状、GCB として統一されたトレサビリティがない。GCB がトレサビリティを求めるのに対応できないので、各企業は自社で LBC（民間の公認買付業者）と協力してトレサビリティを確保することとなり、プラットフォームが統一されていない、複数のトレサビリティが存在している。また、明日見てもらいたいが、トレースできるフローチャートはすべて紙で運用しており、紛失したり破損などにより文字が読み取れなかったりしている。

EU の森林破壊やデューデリジェンスへ対応しなければ、ガーナのカカオを買ってもらえなくなる。また、日本の求める食品安全にも新システムに組み入れることとしている。

新しいトレーサブル・システムでは、カードを配ることでモバイルマネーとして Purchasing Clerk が確実に農家に支払いができる。新システムでは非課税で処理できるように考えている。

新システムの説明は、今回が初めてするものであり、最初に聞くことができるボゴソ地域の農家の皆さんは誇りに思っていただいて結構です。本事業はすでにアシャンティ州でパイロット的に行っており、農家の皆さんにもよく知ってもらいたい。NCTS（National Cocoa Traceability System）はモバイル決済システムなどともに、CMS（カカオ管理システム）のシステムの一部である。

新システムにおけるトレサビリティ導入における課題としては、①サスティナブルについては、農家の皆さんが独自で行う必要があること、②森林と土地利用マップの作製、③新システムへの農家の抵抗感と導入への混乱、④サプライチェーン全体に係るシステム利用者が正しいデータを打ち込めるか等のシステムの理解、⑤システム構築に係る資金調達・設備整備・人員確保、⑥モバイルマネーの IT 環境の整備（農村部での通信環境等）

（両国からのプレゼンを踏まえて、意見交換が行われた。）

（日　本）カカオ栽培や農薬使用は、指導してくれる農協などの人はいますか。

（農　家）多くの農家より手が上がり、GCB の下部組織 CHED（カカオ普及部門）が指導

しているとの回答。

（日　本）農家の皆さんが育てているカカオの樹は何年ぐらいで植え替えますか。
（農　家）多くの農家より手が上がり、30 年から 50 年の範囲で植え替えるとの回答。

（農　家）新システムの導入のマニュアルは文字なのか。文字が読めない生産者がいる。
（ガーナ）現在は文字でのマニュアルを予定しているが、意見を受け GCB に持ち帰りたい。

（農　家）日本側の要求に応えたい。農家の大きな課題は、高齢化である。それにより生産量が落ちてくるので、機械化が必要と感じている。カカオの価格が上がれば人を雇って管理することもできる。
（ガーナ）昨日のワークショップでも GCB 総裁が懸念したところである。
（事前に予定されていなかったが、農家側から申し出により、急遽サスティナブルのプレゼンを実施した。）

農家の課題を取りまとめたので、この場を借りてプレゼンをします。
第 1 の課題としては、
土地利用に関することです。農地については明確な区分がなく法律で守られていないので、所有権が課題である。ガーナ政府に土地が確保でき安心して農業できるようにしてもらいたい。
第 2 の課題としては、
気候変動に関することです。温暖化などにより雨が少なくなっており、カカオの生育ができなくなる。かんがい施設の整備をお願いしたい。
第 3 の課題としては、
人工授粉に関することです。人工授粉は生産量を増加する。その指導は農協レベルにとどまっており、直接農家に指導してもらいたい。
（日本）これは CHED では農家に直接指導をしていないのか。
→　指導してもらっているが、高齢化していて細かい人工授粉の作業はできない。
第 4 の課題としては、
農家の高齢化に関することです。農家の平均年齢は 55 歳から 60 歳で労働力が不足している。そのためカカオ農園を止めたり、ゴムなど他の換金作物に変えたり、金の違法採掘により農地は減少している。GCB では、カカオの FOB 価格の 9 割位を農家に支払っているが、カカオ価格の上昇が必要である。若者のカカオ豆生産離れによる高齢化が進んで労働力が減少していることの解決策として、機械の導入。
第 5 の課題としては、
カカオ腫脹性シュートウイルス病（CSSVD）やカカオの black pod 病、病害虫に関することです。様々な害虫や病原菌への対応として、殺虫剤や殺菌剤の開発やそれを購入する

ためのアクセス道路の整備への支援もお願いしたい。

また、カカオ農園までの道路インフラ整備の支援もお願いしたい。

今回、サスティナブルを認識して対処することが、その実現に向けた方策であると考えている。

（酋　長）私はダナクワメ・スワビルです。Prestea 地区のチーフ（酋長）です。

トレサビリティ、サスティナブルについては、1975 年やっていたことと大きな違いはない。農家は野菜なども栽培しており忙しく、カカオ豆の発酵に 7 日かけるところを 3，4 日で済ませている。最後はお金である。

雇用人の中には、農薬を必要以上に薄めて、余りを売りさばいて利益を得ている者もいるので、GCB で取り締まり、指導してもらいたい。

（日　本）日本チョコレート・ココア協会三谷専務より、閉会のあいさつが述べられた。

1-4(2) 生産農家への研修（技術講習会）
プレゼンテーション資料

MINISTRY OF FOOD & AGRICULTURE REPUBLIC OF GHANA

Ghana Cocoa Board
Poised to Maintain Premium Quality Cocoa

MAFF
Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries

CHOCOLATE & COCOA ASSOCIATION OF JAPAN

23rd November 2022 Bogoso, Western Region, Ghana

Workshop on Sustainable Sourcing of Ghanaian Cocoa Beans

9:30-14:00 BOGOSO GOLDEN HOTEL in BOGOSO, GHANA

Aiming to have a better understanding on activities and challenges towards Sustainability/Traceability targets of the cocoa supply chain in Ghana

建設総合コンサルタント
中央開発株式会社

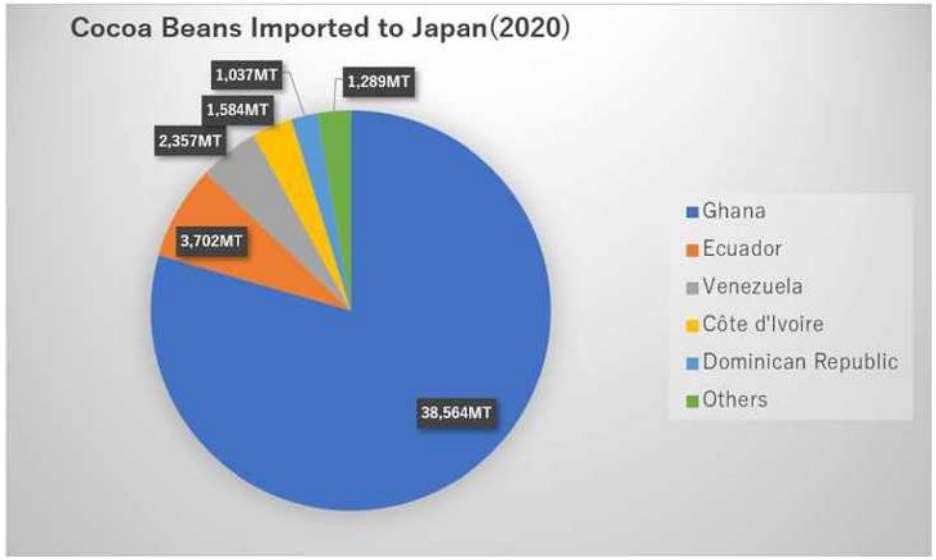
ITOCHU

Agenda

1. Statistics of the cocoa industry in Japan
2. Understanding the need for ensuring traceability and sustainability
3. What Japan have been doing for sustainable activities over the years.

Statistics of cocoa bean imports to Japan

Year	2015	2016	2017	2018	2019	2020
Total Volume (MT)	40,104	63,191	54,836	58,617	53,548	48,533
Import Volume from Ghana (MT)	28,384	48,669	40,412	43,596	33,022	38,564
Imports Ratio from Ghana	70%	77%	73%	74%	61%	79%



Source: Trade Statistics of Japan

・Around **75%** of the total cocoa beans imported in to Japan are Ghanaian cocoa beans.
・The major reasons why so much percentage relies on Ghanian cocoa beans is because people in Japan have been familiar with the **mild and well balanced taste** of Ghanaian cocoa beans over the past years and is the most preferred origination.
・Also, the **trust towards the high quality measures taken in Ghana** is another reason why Japan has been selecting Ghana as their major cocoa bean supplying country.

Statistics of domestic chocolate production in Japan

Domestic chocolate production volume rankings in 2019(MT)

1st Place	Germany	1,158,940
2nd Place	Italy	339,576
3rd Place	United Kingdom	289,465
4th Place	Japan	243,870
5th Place	Belgium	234,185
6th Place	Poland	231,915
7th Place	Switzerland	170,840
8th Place	France	166,530
9th Place	Spain	153,555

＊The United States has not released data since 2011

Source: ICA/CAOBISCO

・As you can see from the chart, Japan is the **4th biggest country** to produce chocolate products within the country amongst many other countries which shares data.

・Japan consumes most of the chocolate products made within the country domestically, therefore the amount of export of the Japanese chocolate product is very low.

MRL rejection data since 2006

	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
2,4-D						1		2				1	11	3	5		
Cypermethrin								1	42	1	1					1	
Fenvalerate	3	7	1	15	7	14	5	3	1	1	3		2				
Imidacloprid				9	4	18	10	6	1	1	1						
Chlorpyrifos	36	6	7		1						1		5	1			
Pirimiphos-methyl	25	13	5	17													
Endosulfan	5	3	3	21	1												
Thiamethoxam					2	2											
Profenofos			1														
Fenitrothion				2													
Atrazine					1												
Chlorpropham						1											
Permethrin				6	8	1											
Total	69	29	17	70	24	37	15	12	44	3	6	1	18	4	5	1	0

Source: Ministry of Health, Labour and Welfare

・Japan is a country which has very strict chemical residue standards.
・After the peak in year 2014, the MRL rejection cases had seen a decline, however in year 2018 there was a spike due to numerous 2,4-D detected cases.
・**The usage of approved chemicals for pesticides, fungicides and fertilizers are very important** for decreasing MRL rejection.

Sustainable Goals set by Japanese confectionary makers

Meiji
Set a goal of sourcing 100% sustainable cocoa beans by 2026.
They have been dedicated to sustainable activities through their own “Meiji Cocoa Support” program since 2006.

Lotte
Set a target for FY2023 of a 20% or more usage rate of Fair Cacao out of total cacao beans procured, with the target of increasing this ratio to 50% or more by FY2028.
Their activities are contributing to a sustainable cacao industry, pursued under their own “Fair Cacao Project”.

Fuji Oil
Elimination of child labour by 2030, no worst forms of child labour by 2025.
One million trees planted by 2030, 500,000 trees planted by 2025.

Morinaga
Source 100% of their cocoa sustainably by 2025, partnering with the Cocoa Horizons Foundation and other sustainable cocoa programs.

Glico
By 2022, the. Glico Group plans to switch all of the Africa-grown cacao beans it procures to traceable.

・Other companies are also starting to follow above trend for setting sustainable goals

Copyright © 2021 ITOCHU Food Sales and Marketing Co., Ltd. All Rights Reserved. Strictly Confidential.

Comments and requirements by Japanese confectionary makers

- **１. The necessity to build an environment and system to make “sustainable procurement of cocoa beans” possible**

- **２. Continue increasing productivity of cocoa beans in Ghana to achieve stable supply**

- **３. Asking continuous support on the proper usage of chemicals and chemical residue checks**

Examples of sustainable activities by Japan

・Establish CLMRS activities in their cocoa sourcing communities, in accordance with the guidelines set by ICI.

・Climate Smart Cocoa training

・Good Agricultural Practices training

・Distribution of cocoa nursery, shade trees

・Distribution of tricycle as National Farmer's Day prize

・Building of boreholes

・Introducing Agroforestry measures

・Being active in the NPO activities such as WCF, CFI and ICI